

ブドウ黒とう病休眠期防除情報

平成31年3月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

越冬量が多いと予想します！休眠期防除を実施しましょう！

1 昨年の発生状況

昨年における本病の発生量は、栽培期間を通して多い状況が続き、本病の最終調査である6月下旬に行った巡回調査(18ほ場)では、発病新梢率が1.6%(平年0.4%、前年0.1%)で、過去10年と比較して最も高い状況でした。

本病は、結果母枝や巻きひげなどの組織内で越冬します。前年9月は降雨が多かったため、感染する機会も多くありました。

以上のことから、今春における本病原菌の越冬量は多くなっていることが予想されます。

2 防除対策

- (1) 棚に残っている巻きひげや被害枝が第一次伝染源です。見つけ次第除去し、園外へ持ち出し適切に処分しましょう。
- (2) 本病は休眠期と生育期の防除を組み合わせることが効果的です。表を参考にして休眠期防除を実施しましょう。
- (3) シヤインマスカットは巨峰より本病に弱いため、特に防除を徹底しましょう。
- (4) 4～5月になると、降雨のたびに分生子を多数形成し雨滴とともに感染を繰り返します。特に、萌芽したばかりの軟らかい新梢や新葉は本病に感染しやすいため、発病部位は見つけ次第除去し、園外へ持ち出し適切に処分しましょう。
- (5) スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。

表 休眠期に使用するブドウ黒とう病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	成分	FRACコード
デランフロアブル(※)	休眠期	200倍	3回以内 (休眠期は1回以内、 生育期は2回以内)	ジチアノン	M9
ベフラン液剤25	休眠期	250倍	3回以内 (休眠期は1回以内、 生育期は2回以内)	イミノクタジン(酢酸塩)	M7
ベンレート水和剤	休眠期	200～500倍	4回以内 (休眠期処理は1回以 内、散布は3回以内)	ベノミル	1

※皮ふに対して刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意し、かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにする。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。